



2018年
(平成30年)
5月17日
木曜日

技術力の高さ「感銘」

仏国会議員が県内企業視察

フランスの国会議員でアルザス欧州日本学研究所(CEJIA)のオリヴィエ・ベシユト所長(42)は16日來県し、県内企業を視察した。本県が建設候補地とされる次世代の大型加速器「国際リニアコライダー(ILC)」の誘致実現に向けて県が抱いたもので、ベシユト氏はILCを支えることになる地元企業の技術力の高さに「感銘を受けた」と喜んだ。ILCについては「岩手の将来を担うだけでなく、人類の将来も担ってくれるというプロジェクトになっていく」と支援を表明する一方、実現に向けては「第一ステップとして日本政府から公式にやると、というアナウンスをしてもらうことが必要だ」として、政府の決断に期待感を示した。

回研究所はフランス・アルザス地方への日本企業の進出や経済活動を支援しており、本県とも活発に交流している。さらにベシユト氏は、欧州の素粒子物理学研究の推進にも携わっていることから、ILC実現に向けて初めて来県。盛岡市内で遠征拓也知事と懇談後、アンソニー岩手(金ヶ崎町)と千田精密工業(奥州市)を訪問した。

このうち千田精密工業では、高エネルギー加速器研究機構(KEK、茨城県つくば市)から依頼されて製造している加速器実験装置の心臓部に当たる「電磁ホーン」の説明を受けた後、千田雄二取締役工場長の案内で大型加工機を使った加工の様子などを見学した。

視察を終えたベシユト氏は「フウハウ、技術力、正確さとともに、自分の仕事の関する深い思い入れに感心した。しっかりと技術を持った企業の人たちにILCに参加してもらいたいので、素直らしい技術を持ったところは信頼がかけると述べた。

ILCについては欧州合同原子核研究所(CEERN)との関係性や、建設費用、運転資金などを課題として挙げながら「リニア粒子をさらにILCで突き詰めるといって宇宙の成り立ちやさまざまな物質の起源が見えてくるのではない

かと期待しており、個人的にも応援していきたいと考えている。欧州としても財政的、技術的、人的な支援を実現に向けて行っていきたい」と期待した。

実現に向けては日本政府の決断が鍵となるが「まず一義的には日本政府にスタートボタンを押してもらいたい。そうすれば周りからさまざまなサポートが集まり、この数十年の間にプロジェクトが目の見えるのではないかと展望した。



千田工場長(左)から製品の説明を受けるベシユト氏―千田精密工業



実現へ
INTERNATIONAL
LINEAR COLLIDER